



重要性は、言者ムハンマドが教育をイスラムの重要な一部として立させたことによりされています。

言者ムハンマドはダール＝アルカムにおいて、初の知の会合をきました。彼は礼モスクに座り、教友たちは彼の回りに集まると、イスラムの基について、理の重要性について、そして最も重要なこととして、神の唯一性について教えられました。言者ムハンマドは知の会合において、弟子たちにクルアンの章句を教え、彼らをマッカマディナ外の共同体へ、クルアンの教として派遣しました。

クルアンを暗理解することは、イスラム教育において今なお最も重要とされる科目です。それに次いで、言者にまつわる承集の学と暗が来ます。それらの承は、真正が保された承路を通してえられています。それは今日、学の正性において参考文献一が使用されることと似通っています。

それらの教たちは、言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の模に忠にいました。彼らは弟子たちと半を作って地面に座りました。教の横には最も信の置ける秀な弟子が座り、教の言をき留めました。イスラムの教育は、小さなからモスク付属の学校へと急速に展していきました。イスラムのカリフ国家では、短い期で土内のあちこちに大きな学校や大学が建てられ始めたのです。

カリフ国家が大すると共に、かつて言者の用いた方法がまりました。クルアンやイスラム知を集播することは、称すべきであるとなされました。クッタブ（学者）やムアッリム（教）はイスラムのあらゆる町や村に存在していました。イブンハウカルは、シチリアへの、地には300人の初等学校教がいたと言しています。に初期のイスラムカリフ国の官僚督となるジュバイルブンハイヤは、タイフ（マッカ近郊の町）の学校の教でした。著名なアル＝ハッジャジや人のアル＝クマイト、アッ＝ティリンマらも教であったと言われています。

尊敬の象となる著名な学者たちも、教育は名誉であるとなしていました。派の注学者であり文法学者でもあるイブンムザヒム（西723年没）は、3,000人もの子供たちが出席した学校をクファに持っていました。弟子たちへの行き渡った指のために、彼はラ

バに って子どもたちの列を巡回していました。

イスラ ムの教育には、他の科目が追加され始めました。それらはイスラ ム的作法、イスラ ム法学、数学、文法、医学、 、 理学、市政学、 学、 史などです。教 、その助手、そして生徒たちは皆教育を真 に受け止めていました。ある教 の教授法は、以下の引用で 明されます。

“彼は法学 の一 を数回 み返しました。生徒たちが暗 すると、それを し、イマ ム マ リクとアブ ハニ ファの相 した裁定を始め、ときには他者による同 のもの、そしてテキストの中で明らかにされていない 所などに特に注意を促しました。そして彼は典 を引用し、非常に明 な言 遣いで 推を 明し、生徒たちの に残るよう、 なる言い回しも使ってそれらを り返しました。”[2](#)

一般的にモスクや学校は、慈善事 によって寄 されたものでした。教 教育はとても 心に激励されていたことから、学校や先生を つけることのできない生徒は一人もいませんでした。 困によって教育を受けられないということはなかったのです。初期イスラ ムの における手法と、 在の教育 のそれとは くべき共通点が多々存在しています。 や弁大会における 秀者に する 、 の 施、そして学位の授与などがそれらの一部です。

また、著名な教育者としては、思想家、医 、教 だった（西洋でアビセンナとして知られる）イブン シ ナ があります。西 10世 において、彼は800年以上に渡り医学界の主要な参考 として使用された医学 を著しています。またイブン シ ナ は、 年の使用に耐え得る教育 程や教育 も残しています。

彼は子どもたちに するクルア ン、 、 信、 理の学 の必要性を しました。一方で、子どもたちが び、 し、 晴らしをする必要性も しませんでした

。教育の全体的な目的とは 々人の身体的 精神的 理的成 であると考えていたのです。彼は教育について、子どもたちを社会に持 的に 献させるための であると捉えていました

。

言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）は文盲だったものの、教 と教育の重要性を理解していました。彼は信徒たちに、知の探求をし、それを他者に 承するよう 起してしました。彼はクルア ンを暗 する重要性と、それが える知 に基づいた行 をするよう いたのです。また彼は信徒たちが、周 にある神の 大さのしるしを探すよう めました。神をするためには、神を知ることが必要で、神を知ることにはかれが 造した世界の素晴らしさを知ることによってもたらされます。知 こそが、私たちの 造主を し、最善の方法でかれを崇 するための なのです。

---

#### 脚注:

1

事「イスラ ムにおける教 」の第2部参考。

2

A. S. Tritton: *Muslim Education in the Middle Ages*. London: Luzac and Co. Ltd., 1957, p. 90.

3

<http://www.muslimheritage.com/topics/default.cfm?TaxonomyTypeID=101&TaxonomySubTypeID=129&TaxonomyThirdLevelID=-1&ArticleID=1063>

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2837>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。